



とび出す食草園のチョウ タテハチョウ科

チョウの成虫がさまざまな花の蜜を吸うのに対して、チョウの幼虫は種類によって決まった種類の葉(食草)しか食べません。植物はさまざまな化学物質をつくって虫から身を守っているの、それを解毒できる幼虫だけが食事にありつけるのです。JT生命誌研究館の食草園によく訪れるチョウとその幼虫と食草の関わりを紙工作でご紹介します。よく見かけるあのチョウの幼虫は何を食べているのかな? 近所で見かけた植物はチョウの食草だったんだ! 身近な虫や草花を注意深く観察すると新しい何かが見つかるかもしれません。

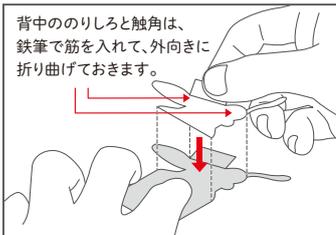


組み立てに必要な道具

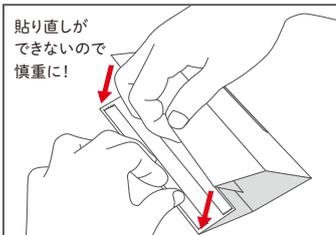
- カッターナイフ/はさみ
- カッティングマット
- ものさし
- 鉄筆やインクの切れたボールペンなど、先のとがったもの
- 両面テープ(10ミリ幅がおすすめ)
- 木工用接着剤
- つまようじ
(接着剤を塗るへらとして使います)

5つのパーツをていねいに切り抜き、説明図にしたがって組み立ててください。

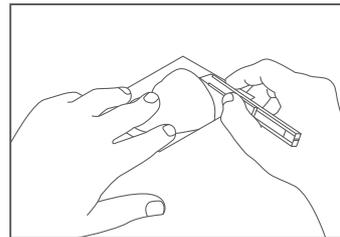
4 体をびったり揃えて貼り合わせます。背中ののりしろと触角はのりづけしません。



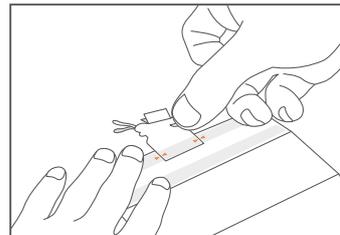
8 両面テープのはくり紙をはがし、角をぴったりと合わせて台座を閉じます。



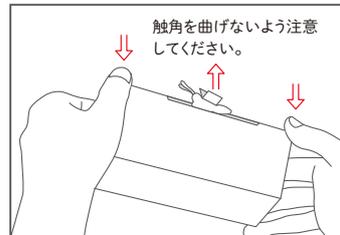
1 下の説明にしたがって翅の表裏を貼り合わせ、手順11の前に切り抜きます。



5 台座を開き、体の矢印とびったり向き合わせてのりづけします。



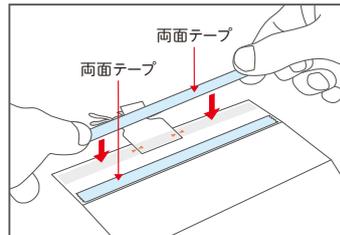
9 四隅を持ち、縦につぶすように台座を押さえると、体がとび出します。



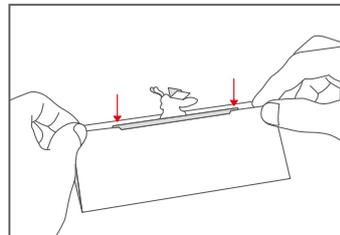
2 台座の折り線5本に、鉄筆で線を引くようにして、折り筋をつけます。



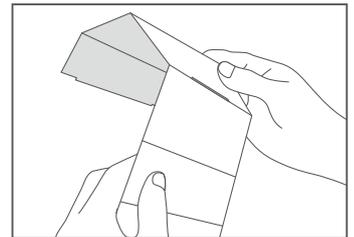
6 両面テープを2箇所に貼り、のりしろを覆います。はくり紙はまだはがしません。



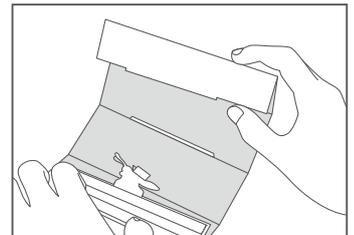
10 紙の出張った部分を、切り込みで噛ませてロックし、形を整えます。



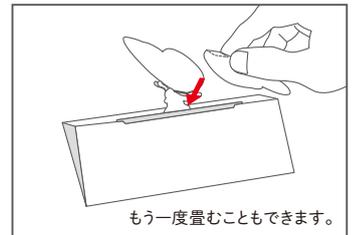
3 折り筋にそって、台座をしっかり折り曲げます。



7 体を内側にくるむように、台座を折り曲げます。

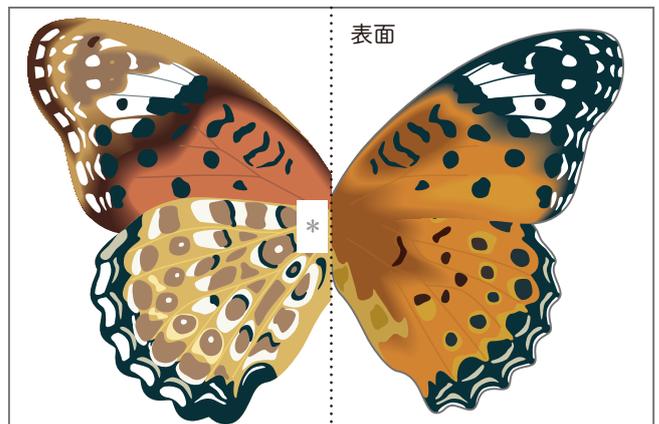
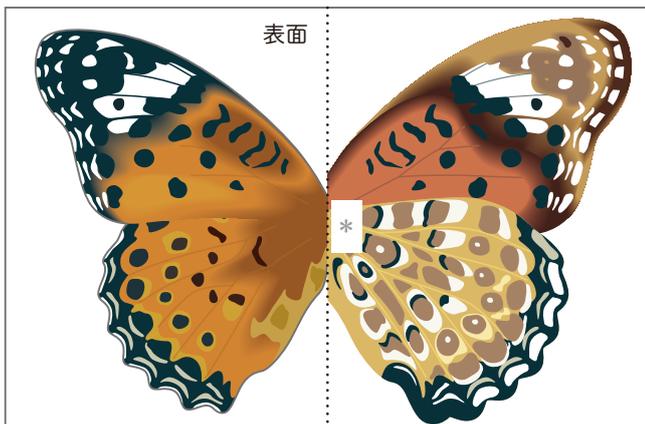


11 翅を背中ののりつけて完成です。翅と触角を開いて飾りましょう。翅もう一度量むこともできます。



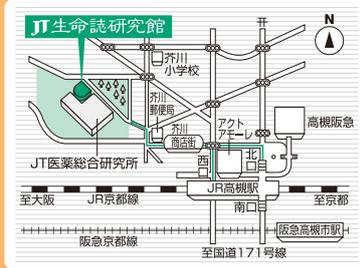
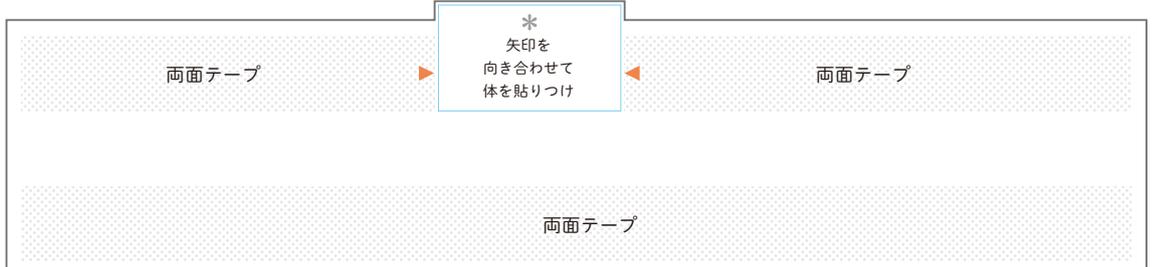
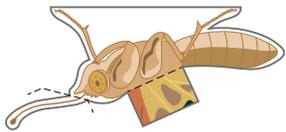
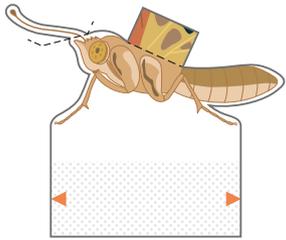
デザイン: 坂啓典(図工室)

翅は周囲の四角い線で切って真ん中で折り、裏面にまんべんなく接着剤を塗ってぴったり貼り合わせ、本などで押さえて平らにします。接着剤が乾いたら、表面の輪郭に沿ってていねいに切り抜きます。



記号の説明

- 実線 切りとり線
- 点線 山折り線
- 破線 谷折り線
- 斜線 切り抜き箇所
- 両面テープでのりづけ
- * 接着剤でのりづけ



JT生命誌研究館

〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1
Tel:072-681-9750(代表) Fax:072-681-9743
<https://www.brh.co.jp>

開館時間 10:00-16:30 入館無料
休館日 毎週月曜日/年末年始(12月29日~翌年の1月4日)
最新の開館情報はWEBサイトでご確認ください。
交通 JR京都線高槻駅より徒歩10分/阪急京都線高槻市駅より徒歩18分
JRのご利用が便利です。



とび出す食草圖のチョウ
タチハチヨウ科

ツマクロヒヨウモンはパンジーの植栽によって都市部でも観察される身近なチョウです。幼虫はアミミズミ科を好み、赤と黒のトゲをもつ奇抜な姿ですが毒はありません。一方、ゴマダラチョウの成虫は樹液を好み、日中アミミズミの樹液に集まる姿がよく見られます。幼虫は緑色で頭部に二本のツノをもち、タチハチヨウの仲間でもそれぞれ特徴的な見たい目をしています。



ツマクロヒヨウモン
食草: スミレ科
パンジー・スミレなど

ゴマダラチョウ
食草: アサ科
エノキなど

冬の幼虫たち

ツマクロヒヨウモンとゴマダラチョウはどちらも幼虫の姿で越冬します。ツマクロヒヨウモンは越冬中も暖かい日があれば動き回り、食草を食べる姿を見ることができます。ゴマダラチョウは冬にエノキが落葉する頃に食べるのをやめ、地面に降りて根元の落ち葉の下で越冬します。冬、エノキを見つけたら根元の落ち葉をそっとひっくり返して幼虫を探してみましょう。



ツマクロヒヨウモン



ゴマダラチョウ(越冬中は茶色)